

シュタイナー学園 2021 年度学校評価

予想を超えて長引くコロナ禍の影響は、相変わらず通常授業や催しを行う上での大きな支障となりました。しかしながら、困難な状況が故に如何にそれを乗り越えるべきかの教員同士の話し合いは丁寧に時間をかけて行われ、同僚間の絆や信頼は更に高まりました。

何よりもどのような環境下でも常に明るく学びに向かう児童・生徒の姿にどれだけ励まされたことか。

保護者への必要な情報発信やコミュニケーションも心掛けてきましたが、それでも協働や学びの機会も減りがちな中、ここぞというときに温かい支えや助けを変わずにいただけたことも、学校評価目標を遂行していく中での大きな力になりました。

日々様々な難しさはあっても、目標に向けて少しずつではありますがコツコツと努力は積み重ってきていると感じます。

これからも学園の取り組みと歩みを温かく見守っていただけるようお願いいたします。

<新型コロナウイルス教師会基本方針・ミッションステートメント>

1) 教育に関して

「子どもたちが明るく健康でいられるための非常時におけるシュタイナー教育の推進」
(緊急事態宣言やまん延防止の中であっても)、教師会は「非常時にできる範囲のシュタイナー教育の学び」を推進する。

※「非常時にできる範囲のシュタイナー教育の学び」とは、一般的な知識獲得学習を指すのではなく

- ・リズムある生活と芸術的要素を考慮した児童・生徒の肉体的・精神的健康の安定に配慮する。
- ・学びの意欲と好奇心を満たす。
- ・受け身ではなく、自分が出来る家庭・地域・社会への貢献を考え行動するのを助ける。
- ・高等部は遠隔による授業実施とそれに伴う心と健康のバランスをケアしていく。

2) 児童・生徒に関して

「こどもたちが孤立・不安を感じることはない工夫」

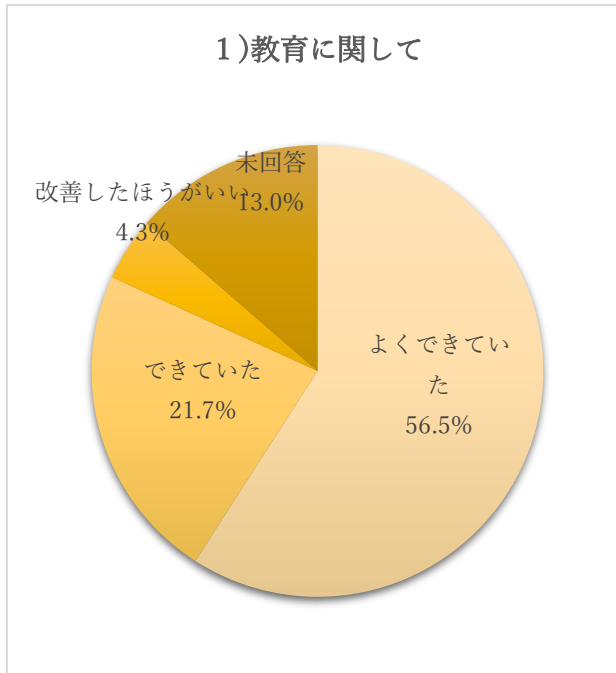
児童・生徒が登校できないために生じがちな孤立・不安を感じることはないように工夫し、担任・学校への信頼を失わず、クラスとの繋がりを感ぜられるようにする。

3) 保護者に関して

「保護者との精神的な繋がりを失わないようにする」

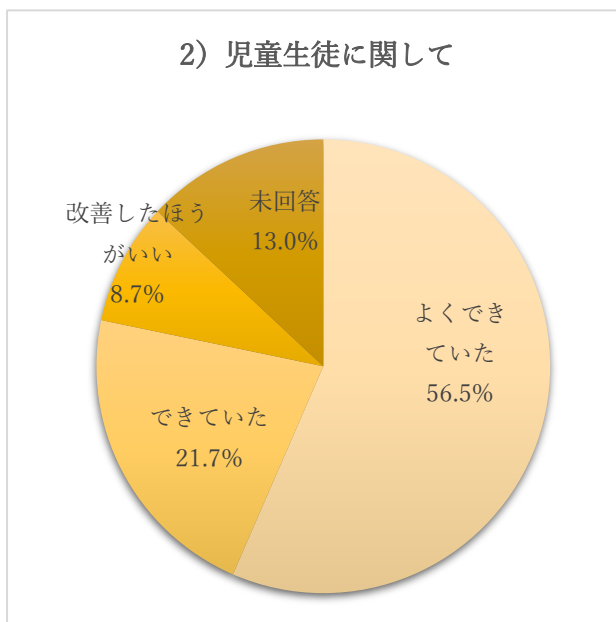
通常の学校交流ができない現在、教師・保護者相互間において丁寧に密な連絡を取り、保護者が学校に対し精神的疎遠を感じないように心掛ける。

<学校評価結果>



1) 教育に関して

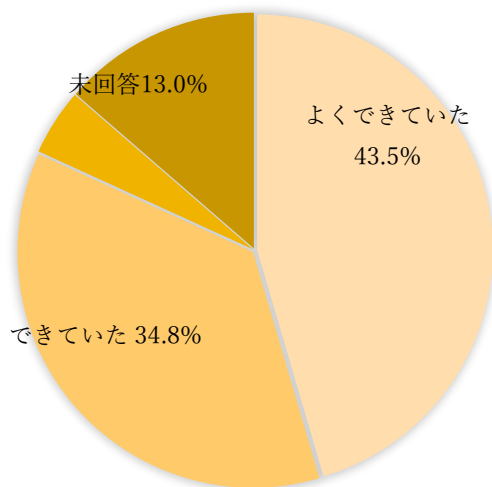
- ・感染時のフローチャートやできる形での行事開催など、何をどうすべきかが考えられていた。
- ・コロナ禍においても、行事や校外学習、実習などを、縮小や創意工夫などで実施されていた。
- ・非常時でも、感染対策を施し、子ども達が学ぶ場を確保されていた。
- ・オンライン授業の導入、宿題、課題の設定など、その時々で最善を尽くしていた。
- ・様々な制限の下、高等部では、生徒とともにどのようにしたら行事を実施できるかを検討し、体育祭や English Day を実施していた。



2) 児童・生徒に関して

- ・コロナ感染が収束しない中、対面授業やオンライン授業に加えて、自宅までノートや教材を届けるなどの孤立化を防ぐ努力がみられた。
- ・高等部では、オンライン授業もスムーズに進み、授業終了後も SNS などを使って生徒同士の交流がおこなわれた。
- ・年齢に応じた対応、健康面への配慮が行き届き、子どもたちがよくまとまっている。
- ・家族に感染症の人が出たときなどにはオンライン授業を通して、学びを継続しつつ、クラスメイトとのつながりを保った。

3) 保護者に関して



3) 保護者に関して

- 対面やオンライン、文書等を通じて丁寧な連絡がされていたが、保護者同士の繋がりが希薄になっている。予想以上に保護者がコロナ禍による様々なストレスを抱えており、子どもの学習に影響を及ぼしている可能性が高いと思われる。
- 教師は、保護者の孤立を防ぐように、オンラインでのクラス会開催などで、保護者からの意見の吸い上げにもできる限り対応していた。
- 学内で感染者が出た時には詳細を知らせていただき、安心することができた。
- 低学年の保護者が、学期祭や卒業式などで他学年の様子を直に見る機会がなくなっていることがきになる。直接見られる機会を増やしたほうがよい。